

## 序文

Global Reporting Initiative (GRI) は、長期的かつ国際的な取り組みであり、多様なステークホルダーが参加している。その使命は、グローバルに適用可能な「持続可能性報告のガイドライン」(以下、ガイドライン) を策定・普及させることである。このガイドラインは、組織<sup>\*1</sup>が活動内容や製品・サービスの経済・環境・社会的側面について報告するために自発的に活用するものである<sup>\*2</sup>。ガイドラインの目的は、報告組織が持続可能な社会に向けてどのように貢献しているかを明確にし、組織自身やステークホルダーにもそのことを理解しやすくすることにある。

GRI は 2000 年 6 月に最初の持続可能性報告のガイドラインを発行した。その後、GRI の結成を促した世界的潮流は衰えることなく、むしろ強くなっている。グローバリゼーションと企業のガバナンス(統治)、アカウンタビリティ(説明責任)、シチズンシップといった問題はいまや、多くの組織や国々において、マネジメントや政策に関する議論の主流を占めている。新世紀初頭の激動の年々は GRI の急速な発展の理由を強くしめしている。すなわち、高い水準が求められる説明責任と、幅広い外部のマルチ・ステークホルダー・ネットワークへの依存度増大が、今後の組織における業務慣行の基本構造の重要な部分を形成していくであろう。

持続可能性報告のための、新しい広く一般に受け入れられた開示枠組みの作成への支持は、企業・市民団体・政府・労働組合などのステークホルダーの中で高まり続けている。GRI が、大胆なビジョンからわずか数年で恒久的な世界組織へ発展したことは、様々な支持層がそのような開示枠組みを必要と感じ、価値を見出していることを示している。包含性、透明性、中立性、そして継続的な向上に根ざした GRI のプロセスによって、説明責任というものが具体的に表現できるようになった。(GRI の概要については付属文書 1 を参照)

## 過去 2 年間の動向

過去 2 年間、GRI の急速な進展を加速した重要なトレンドは、具体的には何だったのか？  
最も大きな影響力となったのは以下である。

**グローバリゼーションの拡大：**地球規模の資本市場と情報技術の進展は、前例のない様々な新しい富の創出機会をもたらし続けている。同時に、そうした富が社会的不平等を改善するうえで何の役割も果たしていないのではないか、という根深い疑念がある。政府や NGO もグローバリゼーションにおいて重要な役割を果たしているが、依然として企業活動がグローバリゼーションの推進力といえる。その結果、企業自身を含むすべての関係者は、企業活動の及ぼす影響が「いつ、どこで、どのように」生じても信頼できる形で記述する、という説明責任の新たなあり方を模索している。

\*1 組織には、企業、政府、NGO などを含む。すべての組織が GRI の対象に含まれる。発足当初は、政府や NGO は近い将来に追従すると予想し、優先的に対象を企業とした。

\*2 GRI では「持続可能性報告」という用語を、シチズンシップ報告、社会性報告、トリプル・ボトム・ライン報告、組織のパフォーマンスの経済・環境・社会的側面を網羅する名称の同義語として使っている。